

麦作情報NO.2

適切な播種で「びわほなみ」の 安定生産を目指しましょう！

1 “適期”に播種しましょう！

「びわほなみ」は秋播性程度が低く、気温が高いと生育が早まるため、適期に播種することが重要です。

播種適期 11月10日 ~ 20日

早期播種は、黒節病や縞萎縮病などの病害につながるだけでなく、出穂が早まり春先の凍霜害による収量や品質の低下につながります。

適期に播種ができるよう、ほ場準備および播種準備を行いましょ。

2 適切な播種作業は収量確保と雑草対策に繋がります！

収量確保と雑草対策には苗立ち数の確保が重要です。今一度、下記のポイントを再確認し、播種作業を実施しましょう。

○播種量：9～11kg/10a

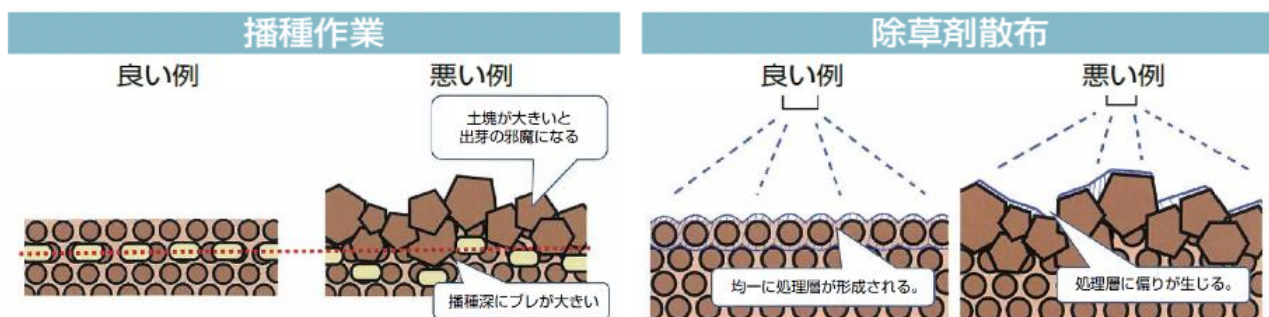
- ・播種が遅れた場合は、苗立ち数を確保するため播種量を増やしましょう。
- ・10日遅れるごとに1kg/10a追加が目安です。

○播種深度：2～3cm

- ・深すぎると、苗立ち不足や生育期の分けつが抑制され減収します。

○条間：20～25cm

- ・播種時の条間を出来るだけ狭くして、麦では場を覆うことで、雑草対策になります。
- ・表層が細かく均一になるよう耕起することで発芽率向上や除草剤効果アップにつながります。



3 耕起前に雑草があれば茎葉処理剤を散布しましょう！

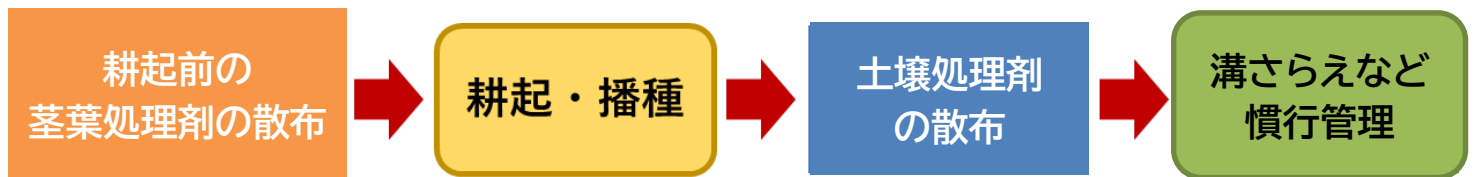
近年、収穫期に雑草が繁茂したほ場（写真）が多数見られます。雑草が繁茂すると収量・品質の低下に繋がります。

耕起前に雑草が確認される場合は、非選択性の茎葉処理剤の散布により、雑草の発生が抑制されます。

播種後は土壌処理剤を散布し、新たな雑草の発生を抑えましょう。



ハルタデが繁茂したほ場



4 再度、排水対策ができているか確認しましょう！

麦の出芽向上や、土壌処理剤、肥料の効果を高めるためには、排水対策が重要です。

排水溝が水尻までつながっていないなど、排水対策が不十分なほ場で生育初期に降雨があると、ほ場に水が滞水して出芽不良や苗立ち不良が生じます。

播種前には、排水溝をしっかりと点検し、排水溝が崩れている場合は溝さらえを行い、ほ場に水が滞水しないよう排水口までしっかりとつなげましょう。



つなぎ目はしっかりつなぐ！